

- 検討したいこと (1)「神保町へ行って本を買う」の【文1】【文2】の接続が継起としての解釈でいいのか  
(2)「神保町へ行って本を買う」と「神保町で本を買う」の選択規則
- 提案したいこと (1)「神保町へ行って本を買う」には継起の解釈は不適であること  
(2) わざわざ行くこと、あるいは必ずしも神保町に行かなくてもいいけれど、敢えて行くといった内容を伝えること

今回は、「神保町へ行って本を買う」を以下の2つの側面で検討します。

- (1)【文1-て】、【文2】の解釈の視点
- (2)「神保町へ行って本を買う」が伝えている中心の意味の視点。ここでは「神保町で本を買う」との使い分け。すなわち、「神保町へ行って本を買う」と「神保町で本を買う」の選択規則の視点

「神保町へ行って本を買う」は2つの文が接続している表現方法です。形式として【文1-て】、【文2】とここでは表記することにします。埋め込み文ですが、上位の文0は捨象して【文1-て】、【文2】と捉えておきます。

## 0 【文1-て】、【文2】の一般的な分析

本題に入る前に【文1-て】、【文2】の用法から確認しておきましょう。

【文1-て】、【文2】の構文において【文1】と【文2】の関係は以下のように分析されるのが一般的です。

- (1)動作を継起順に述べる シャワーを浴びて寝た。
- (2)並列・並立 あの人の部屋は壁に絵がかかっている、窓にカーテンがかかっている。
- (3)因果 太ってスカートが履けなくなってしまった。
- (4)付帯状況 パトカーが赤色灯を点けて走っている。
- (5)手段 日本では手を上げてタクシーを止める。

この表現方法は、単に「て」で二つの文が接続しているだけで、それぞれの【文1】と【文2】の関係の(1)~(5)の解釈を明示的に示す言葉が使われていません。【文1】と【文2】の伝えている内容を鑑み解釈をしているにすぎません。ですから、同一の表現内容であっても解釈が多義に亘ったり、日本語母語話者の間でも異なったりすることがあります。

次の例文を見てください。

- 1 雨が降って、試合が流れた。
- 2 昨日は、雨が降って、風が吹いて、雹まで降った。
- 3 山は急峻で、道が狭い。

1は因果関係の解釈で良いかと思いますが、どうでしょうか。

2は昨日の天候について、事実を知らない場合、複数の解釈がありうるのではないのでしょうか。

- 1) 継起： 朝は雨が降り、昼から風が吹き、夕方から雹になった。
- 2) 並列・並立： 午前中は雨と風は同時にあり（風雨）、その後昼過ぎから雹になった。
- 3) 並列・並立： 雨・風・雹が同時に発生した。
- 4) 因果・並列・並立： 雨が原因で風・雹が同時に発生した。

などと複数に亘る解釈が可能です。

3にしても山の様子描写であれば、描写時の状況ですから並列・並立ですし、急峻であることが、道が狭い要因にもなり得ますから、因果の関係と解釈することも可能です。

実際には、ここに挙げた例文のように文脈なく単発で表出されることはなく、事実や、知識、常識などを背景に表出されます。ですから、ここで取り上げたほどの心配をすることはありません。ただ、(1)～(5)の関係が明示的に示めされていませんから、日本語学習者は【文1】【文2】それぞれの文を正確に理解し、了解できることが求められます。それによって初めて正しい解釈ができるからです。

## 1 「神保町へ行って本を買う」

ここで問題として取り上げたいのは、【文1-て】、【文2】の表現方法が全て上記の5つの解釈で済むのかということ。そうではなさそうなのです。

今回は、その中でも「神保町へ行って本を買う」に焦点を当てて、検討していきたいと思います。

「神保町へ行って本を買う」は、上記の5つの用法に照らし合わせて継起と捉えることがありますが、果たしてそうなのだろうかという問題提起です。

論理的には神保町へ行くという動作が先行し、本を買うが後に行われるのであり、動作行為の継起と言え言えないことはありませんが、それでいいのでしょうか。

まず、継起の用法を検証してみましょう。

- 4 昼ご飯を食べて映画を見た。
- 5 部屋を片付けて宿題をした。

継起の表現方法ですから、順序を明確に示す表現方法（【文1-て】から）、・語（【文2】前に）を用いて検証してみましょう。

- 4 a 昼ごはんを食べてから、映画を見た。
- 5 a 部屋を片付けてから、宿題をした。
- 4 b 映画を見る前に、昼ごはんを食べた。
- 5 b 宿題をする前に、部屋を片付けた。

このように【文1-て】から、【文2】 / 【文2】前に、【文1】と、順序を明確にする語を用いて表現しても成立します。

それに対して、以下の例文ではどうでしょうか。

- 6 神保町へ行って本を買う。
- 7 池袋へ行って映画を見る。
- 8 レストランへ行ってランチを食べる。

例文6、7、8を【文1ーで】から、【文2】/【文2】前に、【文1】としてみましよう。

- 6 a \*神保町へ行ってから本を買う。
- 7 a \*池袋へ行ってから映画を見る。
- 8 a \*レストランへ行ってからランチを食べる。
  
- 6 b \*本を買う前に神保町へ行く。
- 7 b \*映画を見る前に、池袋へ行く。
- 8 b \*ランチを食べる前に、レストランへ行く。

6 a b、7 a b、8 a bは非文法ではないでしょうか。

「神保町に行って本を買う」は、継起としての解釈は成立しないと言っていいのではないのでしょうか、  
ですから、検討課題(1)に対しては継起表現ではないということになります。提案したいこと(1)がそれにあたりま  
す。

## 2 「神保町へ行って本を買う」「神保町で本を買う」

第2の問題提起に進みます。

例文6、7、8で伝えられる内容を、この表現方法を学習するまで学習者は以下のように表現しています。

- ⑥ 神保町で本を買う。
- ⑦ 池袋で映画を見る。
- ⑧ レストランで昼ごはんを食べる。

学習者は当然例文6、7、8と⑥、⑦、⑧とはどう違うかに関心を持つはずで、その選択規則は何かを教え  
なければなりません。

対話例1～3を見てください。{内の表現方法でより適切な方の( )に○を付けながら対話例を読み下してく  
ださい。

- 対話例1 A: 映画を見た?  
B: 見た?  
A: どこで?  
B: 池袋で。  
A: えっ! 池袋で?  
B: そう。  
A: 地元でも見られるじゃない。  
どうして { ( ) 池袋へ行って見たの?  
          { ( ) 池袋で見たの?  
B: 出演者の舞台挨拶があるっていうから。  
A: そうなんだ。

- 対話例2 A: ここで支払いますか。  
すみません。  
レジをお願いします。

B : { ( ) レジへ行って払うんですか。  
( ) レジで払うんですか。  
A : ええ。

対話例3 A : 入金しなくちゃ。  
B : そのATMへ行くの？  
A : ATMじゃダメなのよ。硬貨があるから、 { ( ) 店舗へ行って入金しなくちゃ。  
( ) 店舗で入金しなくちゃ。  
B : そうなの。

対話例1、2、3を通して見ると、共通項として以下のようなことを伝えたいときにこの例文6、7、8の表現方法が選ばれると言っているでしょう。

選択規則 わざわざ行く  
行かなくても要件は済ませられそうなものなのに、わざわざ、あるところへ行く  
あるいは、行かなければならない

もう少し対話例を見て見ましょう。

対話例5 A : この頃、映画はDVDを借りて来て家で見る人が多いです。  
B : そうですね。  
{ ( ) 映画館へ行って大きいスクリーンで見る方がずっと迫力がありますよ。  
( ) 映画館で大きいスクリーンで見る方がずっと迫力がありますよ。

対話例6 A : ダンスの勉強をしたいんですが、どうするのがいいでしょうか。  
B : そうですね。  
プロになりたいんだったら、 { ( ) ニューヨークへ行って勉強することを勧めますね。  
( ) ニューヨークで勉強することを勧めますね。  
A : ご助言ありがとうございます。

冒頭の提案したいこと(2)で書いておいたように【～行って】<sub>文1</sub>、【 】<sub>文2</sub>では【 】<sub>文2</sub>で伝えたい内容の遂行はどこでも可能ですが、わざわざ・敢えて行くということを伝えたいときに選ばれると言えるでしょう。

【～行って】<sub>文1</sub>、【 】<sub>文2</sub>を見てきましたが、以下の例を見ておきましょう。

10 ニューヨークへ行ってダンススクールを決めます。

11 池袋へ行って見る映画を決めました。

実は、これは以下のように言い換えることができます。

10a ニューヨークへ行ってから、ダンススクールを決めます。

11a 池袋へ行ってから見る映画を決めました。

10a' まずニューYorkへ行ってから、ダンススクールを決めます。

11a' まず池袋へ行ってから見る映画を決めました。

「まず」を付加するとより鮮明になったと思いますが、これを見ると、継起の解釈が成立する場合もあるようです<sup>注</sup>。

例文 10 は、対話例 3 の「ニューヨークへ行ってダンスを勉強する」と違って、ニューヨークでなくてもいいということは内包されていません。例文 11 も同様に例文 7 「池袋へ行って映画を見る」と違って池袋でなくてもいいということは内包されていません。このことから表層的には同一の表現形式の表現方法が継起と解釈される場合とそうではない場合があることがわかります。

ですから、指導の側面からいえば、表層的には同一の表現形式ですが、指導者側はしっかりその違いを認識をし、学習者に混乱が生じないように指導することが求められます。

¥

注 例文 10、11 に関し、「ダンススクールを決める前に、ニューヨークへ行く」/「見る映画を決める前に、池袋へ行く」の表現方法については触れませんでした。回を改めて検証したいと思っています。